

3月8日(月)

報告:伊勢 陽子

---

[分担：午後の発表]

発表2：講題「A case of acute encephalopathy associated with enterovirus」

内容概要：エンテロウイルス感染に起因する急性痙攣重積脳症の2歳男児を経験した。一度解熱後に再び発熱を認め、再痙攣を起こした。頭部MRI 状は浮腫性病変を認めた。ステロイド投与により後遺症なく回復した。急性脳症の早期発見にMRI 画像が有効と考えられる。日本はMRI 所有台数が他国に比し多く、このような早期にみられる臨床所見を観察することが可能である。脳症の早期診断を目指し努力しているところである。

質問：(SGHの小児科医より) ステロイドを使用したのはなぜか。

回答：ステロイドは抗炎症効果がある。その作用を期待し投与した。上級医からそのような指導を受けている。

午後のディスカッション

精神科担当はDr. Victor だった。その他に resident2 名が参加してくれた。

日本では何年の研修が必要なのか、と尋ねられた。

福島県立医科大学病院では初期研修が2年間、この間は内科、外科を含め様々な科で研修する。その後は自分の希望する科で後期研修を受けることになる。精神科の場合は精神科専門医を目指すコースと、心身医学科認定医を目指すコースがある。精神科専門医は3年以上の研修、心身医学科認定医は5年間の研修の後に試験を受けることができる。また、当初から児童精神医学を学ぶことはできず、まず精神科全般を勉強してから児童の勉強へ入ることも説明した。

SGHでは3年間一般精神科 (general psychiatry) を学び、その後に child (児童) を選択するか adult (成人), forensic (法律に関係する患者), addictions (依存症) 等を選択するかにわかれるとのお話だった。選択は6月に行われるそうだ。

児童を希望しているが、どんな疾患に興味を持っているのかと尋ねられた。

私が興味を持っているのは ADHD, PDD を含めた autism, 児童虐待, 摂食障害だと答えた。

Dr. Victor は ADHD が専門だと話してくれた。

詳しく話を聞きたかったが、相手の英語を聴きとれず、こちらの聞きたいことをうまく伝えられずもどかしい思いをした。

児童に興味を持っているということで、翌日は同じ敷地内にある Child Guidance Clinic を見学させてもらえることとなった。